

第25回全国障害者スポーツ大会青森県準備委員会 第1回会議 結果概要

1 日 時

令和2年11月20日（金）14：00～15：15

2 場 所

ラ・プラス青い森 2階 カメリア

3 出欠状況

出席者 29名（代理出席1名）

欠席者 2名

4 議事概要

（1）説明事項

- ① 全国障害者スポーツ大会の概要、第25回全国障害者スポーツ大会青森県準備連絡委員会の経過報告及び大会開催に向けた準備スケジュール等について事務局から説明。

（2）審議事項

- ① 第25回全国障害者スポーツ大会青森県準備委員会会則（案）について事務局から説明し、原案とおり承認。質疑等は以下のとおり。

【安藤委員】

本県において、まだ未実施種目に取り組んでいる団体はなく、主管団体もまだ確定はしていないと思うが、今後、活動を進めるにあたって新たに必要となる委員を加えることは可能なのか。

【事務局】

こちらの委員会については、人数の上限等はなく、その時に必要な団体にはご協力をいただきたいと考えているので、その際は委員の皆様にご報告しながら、新たに追加することはあり得る。

【内海委員】

全国障害者スポーツ大会青森県準備委員会ということだが、障害という漢字の「害」をこのまま続けていくのか。実行委員会ができる際、あるいは本番の2026年開催時から、青森県が先駆けて障害者の「害」を変えられるような働きかけができないものか。

【事務局】

こちらの名称については、本県が決めているものではなく、日本障がい者スポーツ協会が決定しているものである。障害者の漢字の部分については、具体的に変更する話は伺っていないので、今後、名称について「害」の漢字をひらがなにするとか、全体の名称が変わるとか、そういった情報があった場合は、皆様に報告をしながら、もしこの青森大会自体の大会の名前も変わることがあれば、この会則自体も変更することとなる。

【内海委員】

この準備委員会は、いわゆる選手強化とは別組織ということで、2本立てでいくということによろしいか。

【事務局】

あくまでもこちらは開催準備事業となり、大会運営に必要な事項を検討し、決定していくこととなる。

選手育成強化に関しては、開催準備のためという位置づけにはできないため、障害者施策の1つとして、障害者スポーツの振興を図るために別途行うものであり、同時並行で進めていくこととなる。当面の間の目標としては、この青森県大会を目指して育成・強化を行う。

【内海委員】

国スポのハードの面と、障害者に対するハードの面について、この準備委員会から進言できるのか。

【事務局】

基本的には国スポで改修し終わった施設を利用して障スポを実施するという流れになっており、こちらから意見は出せるかと思うが、実際には国スポの開催に向けた施設整備の中でできるだけやっていただき、障害者の更に必要な部分については臨時的仮設等で対応する予定である。

- ② 第25回全国障害者スポーツ大会青森県準備委員会の役員を選出について事務局から説明。選出した役員は以下のとおり。

会 長 山田 金治 委員
副会長 阿部 弘子 委員

- ③ 第25回全国障害者スポーツ大会愛称・スローガン（案）について事務局から説明し、原案とお承り承認。質疑等は以下のとおり。

【内海委員】

愛称は国スポと比べて一字違うだけで、ロゴの色は全く同じ色なるのか。一字だけだったら国スポなのか障スポなのか、見た目にインパクトがないのではないか。

【事務局】

「国スポ」の「国」の部分が青で、その他の部分が赤になっているので、同じ色合いを想定しているが、デザインはこれから決定することとなる。

- ④ 第25回全国障害者スポーツ大会マスコットキャラクター（案）について事務局から説明し、原案とお承り承認。質疑等は以下のとおり。

【福沢委員】

競技別のキャラクターは、大体いつ頃までに完成する予定なのか。

【事務局】

これからデザインをどれだけ作るか協議に入っていくため、明確な回答はできないが、国スポにも確認した上で、改めて完成する目安をお知らせしたい。

⑤ 第25回全国障害者スポーツ大会会場地選定基本方針（案）について

事務局から説明し、原案とおり承認。質疑等は以下のとおり。

【嶋口委員】

来年度中に会場地を決めていきたいということだが、市町村の経費負担の考え方はどのようなになっているのか。

【事務局】

基本的には先催県の例を基に進めていくこととなるが、個々の事情は絡んでくると思う。ただ、大きな経費負担として、会場地の整備については基本的に国スポの事業で行うので、大きな整備事業に係る経費は障スポとしては予定していない。

市町村に負担していただくものとして、主に挙げさせていただくとすれば、会場の運営に職員の方とかを配置していただくと思うので、旅費や賃金、時間外が必要となり、各市町村で独自に周知活動等をしていただける際には、市町村の負担をお願いしている。詳細については、今後、各市町村とも協議をしながら進めていくこととなる。

【嶋口委員】

経費負担の考え方は国スポの考え方に準じているということか。

【事務局】

国スポの考え方は別にあると思うが、障害者スポーツ大会については基本的に県主導で進めていくこととなるため、大きな部分は県で負担することとなる。ただし、一時的とか独自で取り組んでいただく部分については、市町村に負担をお願いすることにはなる。

【嶋口委員】

その辺も会場地の市町村の方と十分に意思疎通を図りながら、後で聞いてなかったとかいうことのないように協議を進めていただきたい。

【大南委員】

施設整備について大きなものは障スポにはないということだが、国スポもわりと仮設のものが多くて、国スポが終わると仮設は一旦撤去し、そしてまた障スポの時に仮設を設置しなければならない場合、財政的な負担も出てくると思う。

各自自治体にはいろんなハードルが少し高い部分があって、交渉する際にはいろいろ問題が出てこないとも限らない。その交渉については、あくまでも県が主導で行うということでのよろしいか。

【事務局】

主導という意味では基本的に県主導で調整を図っていくこととなるが、その際には各競技団体の皆さんにはご意見をいただきながら、ご協力いただくことはあると思う。

先ほどの仮設の話について、まだ日程は決まっていないので何とも言えないが、基本的には国スポが終わり次第、あまり何週間も空けずに障スポもできればと考えており、できれば既設の施設でできれば一番いいと思うが、さまざま考慮しながら、経費的にあまりかからない方法で会場地を選定していきたいと思う。

【安藤委員】

国スポの方では、もう既に9月末の段階で開催地と県の方で施設調査の一次調査を進めており、今の段階で先催県の事例を基にしながらデータを作って提出している。

市町村の経費負担軽減の点でいうと、仮設の他に、用具のレンタルがあると思う。レンタ

ル期間を設定して見積もって経費を計上しているが、障スポが行われることは想定していないので、新たな経費負担を生むことになる。そのレンタルも念頭に置きながら、国スポ事務局に提出している一次調査のデータと突き合わせた上で、開催地候補の市や町に対応していかなければいけないと思う。

【事務局】

こちらについては、今後、各市町村に国スポの状況も含めて調査しながら、競技団体の意見を踏まえて進めていきたい。

(2) 協議事項

- ① 第25回全国障害者スポーツ大会開催基本方針（素案）について
- ② 第25回全国障害者スポーツ大会競技役員等養成基本方針（素案）について
- ③ 第25回全国障害者スポーツ大会ボランティア養成基本方針（素案）について
- ④ 第25回全国障害者スポーツ大会広報基本方針（素案）について

事務局から説明。質疑等は以下のとおり。

【内海委員】

競技役員、あるいは補助員の養成講習会等について、所属の連盟が負担をして実施するのか、県からの予算で企画運営ができるのか確認したい。

【事務局】

国スポの方でも競技役員の養成を進めており、同一競技については、まず国スポの競技の部分で養成をして、足りない部分はこちらで補っていくことになる。

障スポには独自競技があるので、障スポとしてはまず独自競技に必要な部分についてまず取組を始め、国スポの状況を確認しながら、障害者の部分で不足がある部分については、県の予算で養成事業を進めていければと考えている。

【内海委員】

ある程度障害者の知識がある競技役員、補助員を段階的に進める必要があり、より専門的なことに関しては、その資格を持った方を招聘しなければならないと思うが、それらの経費についても検討をして、捻出していただきたい。

【事務局】

必要な部分に関しては県の予算で講習会等を開きたいと思うが、どうしても障害者特有の資格が必要な部分について取り急ぎ始めることとしている。

【内海委員】

ボランティアに関して、かなりの人数が必要かと思うが、県として学校の教職員あるいは自衛隊、警察・消防等の公務員の方々、それらの方々の動員というのは考えているのか。

【事務局】

動員範囲については、まだ検討に至っていない。ただ、学校関係については協力いただくこととなる。

【内海委員】

せっかく学生等に研修会等をやっても、卒業してしまってもその時にいないことも考えられ、計画的に養成をしないと実質的に本番で困るとことも考えられる

【事務局】

研修スケジュールについて慎重に検討をしながら進めていきたい。

【安藤委員】

競技役員について、資料の中で審判、競技記録「等」とあるが、「等」の中に放送というのが非常に大きなウェイトを占めると感じている。各競技で選手紹介とか、ルールについてとか、競技中のアナウンスがあるかと思うが、その育成、放送員の育成というのは非常に時間がかかると思っている。

この競技役員の育成に関しては、放送関係のほかにもあるかもしれないので、審判員養成、記録員養成と同等に対応いただければ大変ありがたい。

【事務局】

今後、競技役員の役割を分析した上で、どういった研修が必要か、改めて検討をしていきたい。

【阿部委員】

何回か全国障害者スポーツ大会に行ったことがあるが、和歌山大会で、会場の見かけは古くても、中は全部新しい水洗トイレに替わっていた。私は障害者はトイレが肝心だと思っている。会場を選考する際も、その辺を配慮していただきたい。

【事務局】

会場地選定の際には、市町村と競技団体の方と一緒に競技施設を見させていただきながら決定したいと思っているので、トイレとか、そういった動線等も踏まえて会場地選定をしたいと思っているので、その辺の情報もできるだけこちらで調査できればと考えている。

【内海委員】

今のトイレの件で、昨年度、国体の方に見学というか視察に行った者が、ほとんど健常者のための、国体のためのハードの面は設備されているが、障害者に対しての施設設備というのはあまり徹底されていなかった。それをボランティアで補っているのが現状だという報告を受け、それでいいのかなと思っている。ただし、一過性のもので障害者に対してのトイレなどは必要な個数等を確保するのも難しいと。

立ち寄ったサービスエリアのトイレが工事中だった際、大きな仮設トイレが4つ設置されており、これはすごいものだなと見てきたが、それなりのスペースが必要で、健常者のものよりも4倍ぐらいのスペースが必要だった。

【事務局】

どういった仮設が必要か、スペース等も踏まえて今後調査することとしたい。